

# 都市計画道路の優先整備路線の選定

## 1. 優先整備路線選定の考え方

都市計画道路は、その果たす機能により、「広域的な課題解消に資する路線」と「地域的な課題解消に資する路線」とに大別される。

「広域的な課題解消に資する路線」は、国や大阪府、近隣自治体との協力、連携のもと整備を進める路線であり、周辺都市の主要な都市拠点との連携を高めるネットワークを形成し、交通機能や防災機能といった都市機能を支えることが求められる。

一方、「地域的な課題解消に資する路線」は、本市が主体となり整備すべき路線であり、地域内の交通機能を支えるとともに、まちづくりや地域の防災性向上など、地域の身近な課題への対応が求められる。

このように果たすべき機能が大きく異なることを踏まえ、「広域的な課題解消に資する路線」と「地域的な課題解消に資する路線」それぞれで着実に整備を推進していくことが必要となる。(図1参照)

事業の推進に向けて、「広域的な課題解消に資する路線」については、現在要望を行っている亀井本郷線や大阪柏原線などを中心に、国及び大阪府に対して整備要望を継続していくものとする。また、本市の事業路線と密接な関係を持つ路線については特に整備要望を行う。

「地域的な課題解消に資する路線」は、少子高齢化、将来交通量の減少などとともに、公共投資の制約という社会経済情勢のなか、重点的かつ効率的な整備の推進が求められる。そのためにも、本検討で、機能面や事業面からの定量的評価及び、上位計画の整合性などの観点からの定性的評価により、整備を優先すべき路線を選定し、「地域的な課題解消に資する路線」の整備を着実に進める。(図2参照)

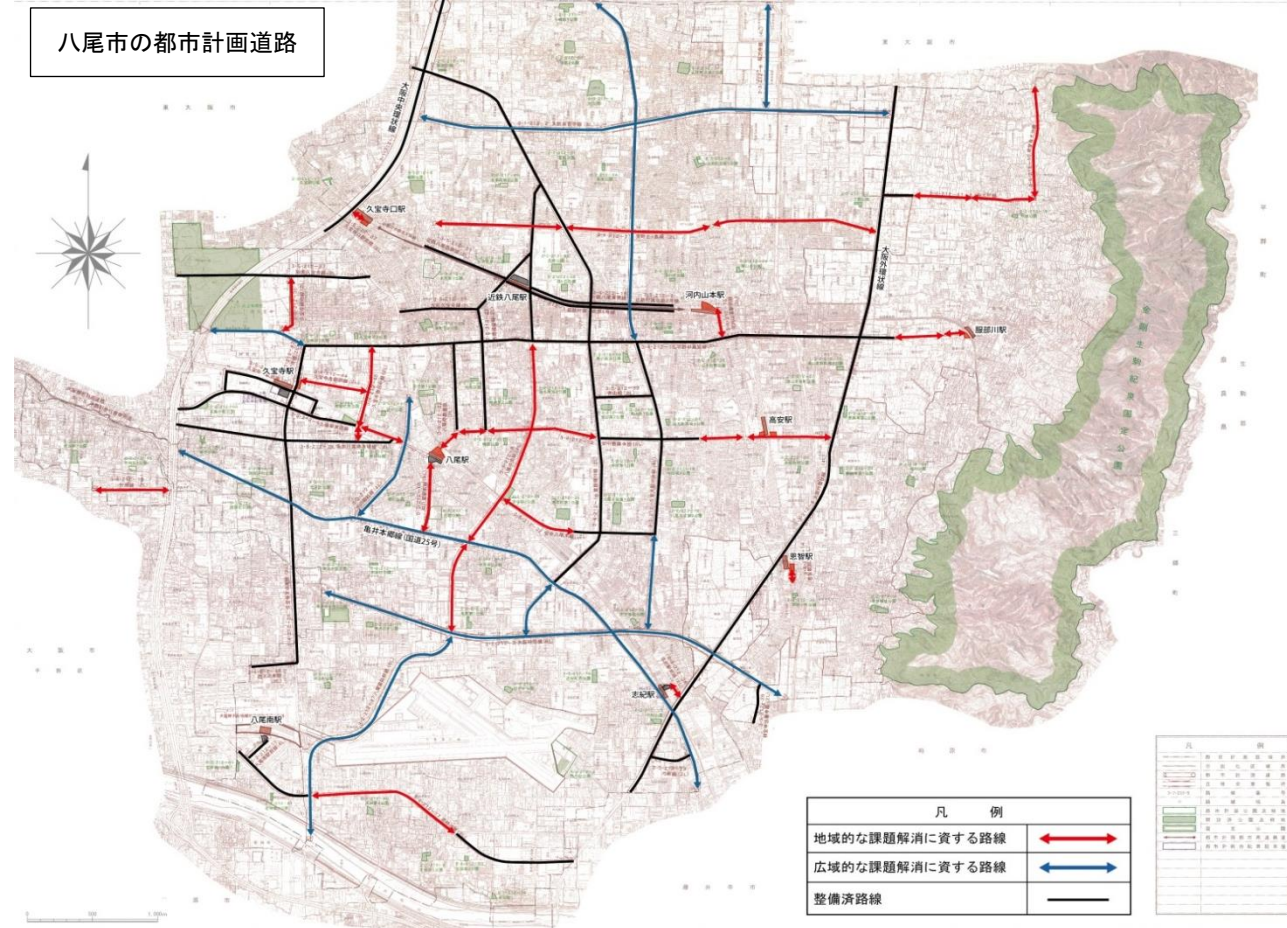
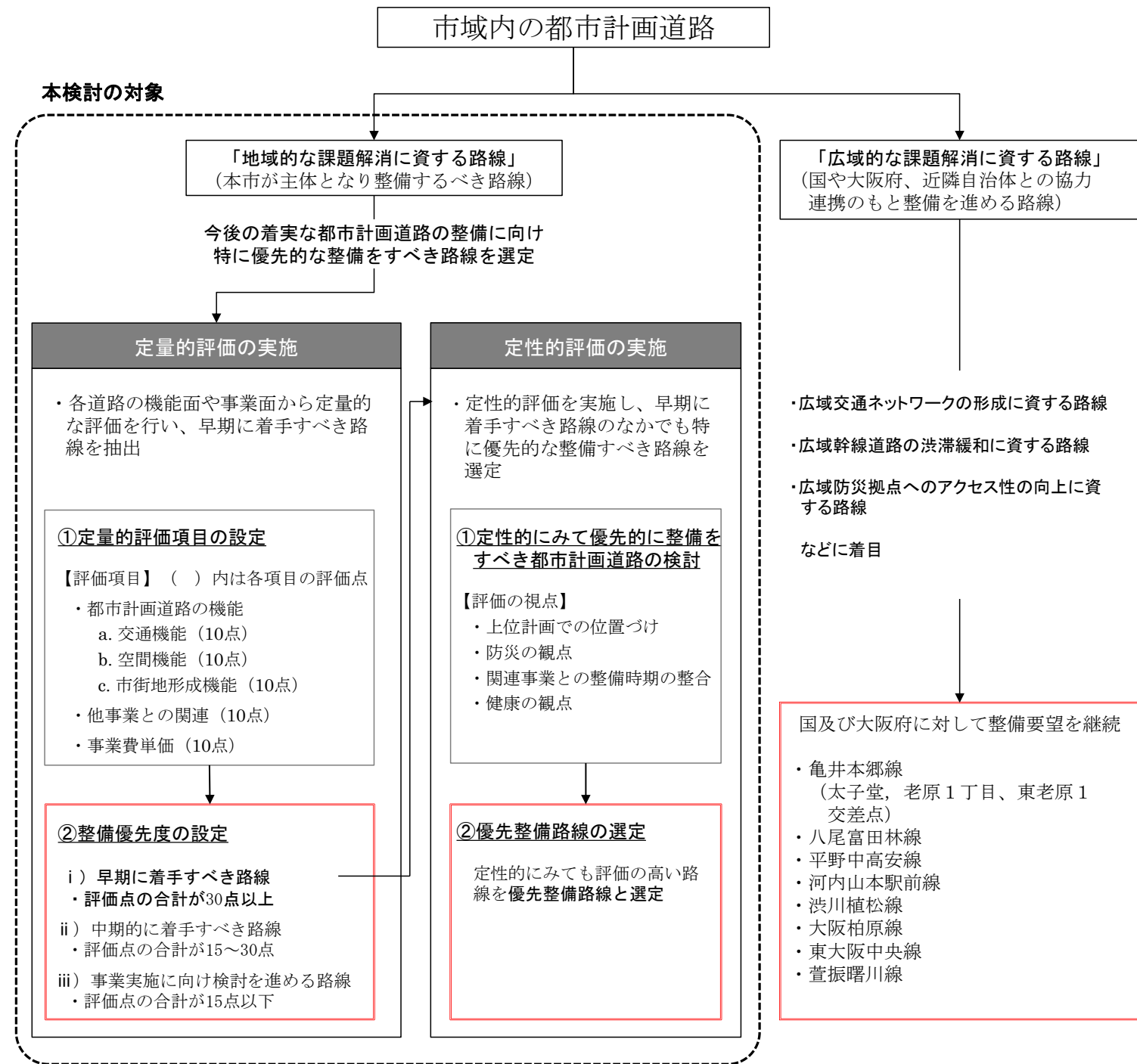


図1 「広域的な課題解消に資する路線」と「地域的な課題解消に資する路線」



## 2. 優先整備路線の選定

機能面や事業面からみて早期に着手すべき路線の中でも、特に早期に整備すべき路線として、(都)河内山本駅前線、(都)JR八尾駅前線を選定した。

なお、上記路線以外の都市計画道路においても、社会情勢の変化を踏まえ、区画整理・再開発等の面的整備、国・大阪府など他の自治体と連携する必要があると認められる事業など、まちづくりが具体化する機会を捉えながら、順次事業化を図る。

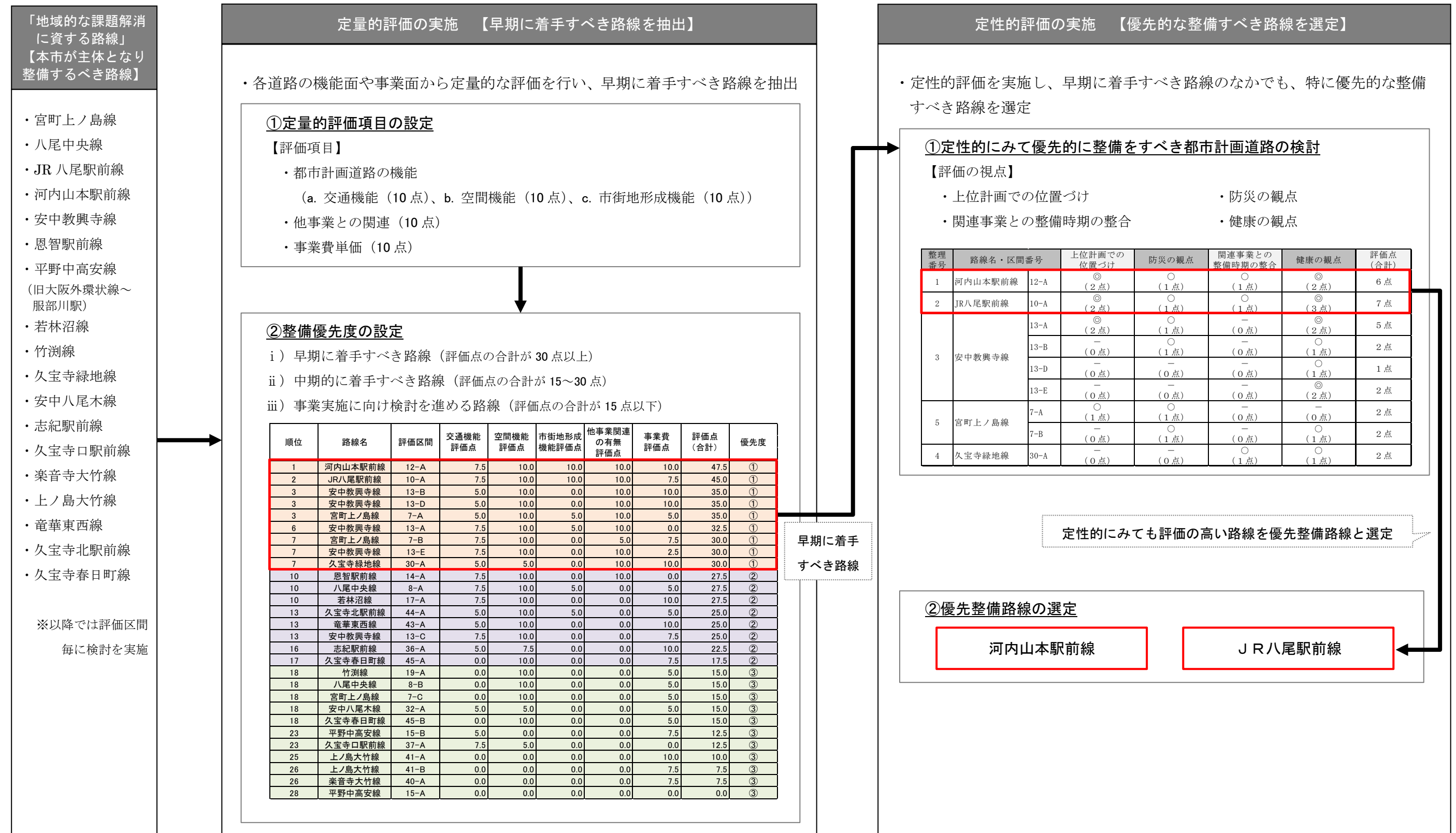


図3 優先整備路線の選定

以降に優先整備路線のなかでも特に早期に整備すべき二路線の選定理由の詳細を以下に示す。

## ■河内山本駅前線

### ① 近鉄河内山本駅の機能向上及び周辺地区の整備による都市核の充実

上位計画において、近鉄河内山本駅は地域の核（副次核）と位置づけられており、鉄道・バス等と道路を連携し、その利便性を確保するため、駅前広場の整備に努めるとされている。

また、玉串川の桜並木については、大阪ミュージアム登録や大阪みどりの百選等として紹介される八尾市の貴重な財産であり、その中心に位置する河内山本駅周辺をこの桜並木の美しい風景の玄関として位置付け、整備を進めることで、商業面だけでなく観光面でも地域の活性化を図ることができる。

平成 20 年度には、近畿日本鉄道株式会社が、河内山本駅構内でエレベーター及び 2 段手すりの設置等のバリアフリー化が実施されており、今後の駅前広場、河内山本駅前線の整備により、一層の安全で快適な道路空間が確保できる。

### ② 関連事業との連携による事業効果の向上

河内山本駅前線における関連事業として玉串川沿道の歩行空間整備や護岸整備、道路改良、踏切改良等の事業が実施に向けて調査・検討されている。これらの事業実施主体となる大阪府等の関係機関と連携することで、駅周辺が一体的に整備され、事業効果が高められる。

## ■JR 八尾駅前線

### ① JR 八尾駅の機能向上及び周辺地区の整備による都市核の充実

上位計画において、JR 八尾駅周辺は地域の核（副次核）と位置づけられ、南北に分断された地域の解消や利便性の向上、バリアフリー化等を進めるとされている。

現在 JR 八尾駅周辺では、上記課題に対応すべく、自由通路整備、橋上化に合わせた駅前広場整備を先行して事業が進められている。そのようななか、本路線の整備により、広域軸である国道 25 号からのアクセス性向上、JR 八尾駅の交通結節点機能の向上、交通ネットワークの連携などにより、一層の利便性向上が図られる。

### ② 防災性の向上

上位計画において、JR 八尾駅周辺の木造住宅が密集する地区に対し、道路や公園等の公共空間を確保し、住環境の確保とあわせて防災性の向上に努めるとされ、JR 八尾駅前線の整備による防災性の向上を図る。

また、同地区（約 52ha）は、大阪府策定の「大阪府密集市街地整備方針」における「災害に強いすまいとまちづくり促進区域等」に指定されており、建築物の不燃化・耐震化の促進と、住宅・住環境や都市基盤施設の整備を総合的に行うことにより、災害に強いすまいとまちづくりを促進するとされている。同計画では、消防活動困難区域の約 18ha のうち、JR 八尾駅前線の整備により避難路及び延焼遮断帯の確保に加え、約 9ha の消防活動困難区域が解消すると見通している。

### ③ 事業の実現性

当該路線では、過去から土地買収面積の約 2 割の事業用地を取得している。また、駐車場・農地・公共用地といった建築物が無い土地が買収面積全体の約 6 割を占めており、比較的事業を進めやすい路線といえる。

